

ミス大学 地域力を発信

・京都検定や和装審査
・数百社に協力依頼

同志社大学（京都市上京区）で「ミスキャンパス」を選ぶコンテストが、26日に初めて開催される。

トが、26日に初めて開催される。単なる美人コンテストではなく、行政や地元企業を巻き込み、地域密着で京都色を重視しているのが特徴で、すでに出場する候補11人も決まりた。大学のミスコンは、首都圏に比べて関西ではあまり開催例がないが、学生有志でつくる実行委員会は「京都、関西を盛り上げるきっかけにし、東京に負けない発信力をつけて」と話している。

実行委代表の法学部3年、小山田貴幸さん（20）が、首都圏での就職セミナーなどへの参加を通じて「同志社は関西では有名だが、東京では低くみられる」「関西からももっと情報発信して、行動を起こすムードを

美人選ぶだけじゃつまらへん

同志社大、26日に開催

同志社大のミスコンに参加する候補者。地域密着で盛り上げを図る
＝京都市上京区（森川潤撮影）

高めないと」と痛感したのがコンテストを開くきっかけとなつた。

「ただ美人を選び、内輪で盛り上がるのではつまらない」と、テーマに据えたのが「地域密着」。実行委では、伝統品を扱う地元の商店や企業、団体など数百社に運営の資金面を含めて協力を依頼するとともに、上京区内のスポットなどを学生が紹介するフリーマガジンを1万部作製した。また、今年区制130年を迎えた区ともタッグを組み、公募で9月末に決まった候補者を区の記念イベントに出場させるなど、積極的に地域とのかかわりを進めてきた。

選考方法にも「京都らしさ」を取り入れ、京都商工会議所主催の「京都・観光文化検定」（京都検定）の成績や、和装ファッショントレンド審査する方式を採用。ミスキャン



コンテストは大学側の公認こそ得ていないが、当初数人だった実行委メンバーは約30人に膨らみ、「飛び込み営業」や開催趣旨に賛同する人たちが増えた結果、地元企業十数社、ピンクリボン京都実行委員会を含む約20団体が協賛に名を連ねた。京都市の門川大作市長も「地域に学生が入り込む姿勢を歓迎したい」とエールを送る。

「京都の伝統店は学生を大事にしてくれているのに、学生側は全然知らない。もっと京都に目を向けて地元とつながるきっかけを作りたい」と小山田さん。候補者の一人、松岡史子さん（21）は「京都検定の勉強などをしているとこれまで素通りしていた建物や景色に気づく」とがって楽しい」と話している。

「ミスキャンパス・同志社2009」は、上京区のKBSホールで開かれる。入場無料。専用ホームページ（<http://doshisha.misscampus.jp/>）に概要を掲載している。